

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	産業経済部		
	課名	商工観光課		
	係名	観光係		
	記入者		電話(内線)	217

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]		継続		(2) 事務事業 の名称		市内観光案内所運営事業				(3) 事業の 優先度		A	
(4) 総合計画での位置づけ							(6) 事業主体		市				
① 事業の区分		主要事業						(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)			
② 施策コード		34199		(総合計画掲載ページ)		106			会計区分	一般会計			
基本目標(政策)		3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)							財源区分	市単独			
基本施策		3-4地域資源を活用してにぎわいと交流を促進する観光の振興(観光)							予算科目	款 7		項 1 目 5	
施策		①地域資源を活用した観光の振興							予算書上の	市観光案内所運営経費			
施策内容		その他							事業名称	(予算書 130ページに掲載)			
(5) 事業期間		開始		平成	27	年	月から		(8) 事務分類		自治事務		
		終了				年	月まで (力年)		根拠法令				

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象（だれに対して・何に対して行うのか）	(3) めざす姿（意図・どのような状態になるのか）
市民並びに観光客	結城市観光の窓口として観光客への案内や情報提供を行う。また、結城紬貸出事業の実施により、結城紬のPR及び利用者の促進を図る。
(2) 手段（事業内容・どのようなことを行うのか）	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など （※ 1-（8）事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし）
・観光客への案内・観光情報の提供 ・結城紬きもの貸出事業の実施	平成27年度に情報センターの空きテナントを活用し、きもの貸出事業を開始したが、週末開館であることから平日の施設活用を図るとともに「きもので街歩き」実施に際して観光ガイドを要することから、観光ボランティアガイドが常駐する観光案内所機能を加えた。
(5) 事業をとりまく環境の変化（社会環境、市民ニーズ等）や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
観光案内所は現在市観光ボランティアガイドが情報センター閉館日（月曜）を除き常駐しているが、会員のほとんどが60代以上であり、外国語に対応できていない。今後茨城国体や東京オリンピックに訪れる観光客に対応するため、外国語に対応できるガイドの養成や、案内標記の外国語表示に対応していく。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映						
実施計画												
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）						
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度		
(1) 事務事業費の コスト	事業費	需要費		38								
		光熱水費		396								
		役務費		62								
		委託料		580								
		使用料及び賃借料		300								
	合計				1,376							
	財源	国庫支出金 (千円)										
県支出金 (千円)												
地方債 (千円)												
その他特定財源 (千円)												
一般財源 (千円)				1,376								
合計 (千円)				1,376								
補助・起債制度名												

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名		目標値	人						
		実績(見込)値							
		目標値	件						
		実績(見込)値							
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	観光客案内人数	目標値	人		2,000	3,000	3,000	4,000	
		実績(見込)値		1,615	2,000				
		達成率		40.4 %	50.0 %				
	着物貸出数	目標値	件		100	150	150	200	
		実績(見込)値		49	80				
		達成率		24.5 %	40.0 %				
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	交流人口の増加を図り、観光客に対する案内や情報提供は今後増加すると思われる					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	観光ボランティアガイドは結城の地歴に詳しく、コースルートの提案等も可能であるため、今後も継続して依頼する。					
	手段の妥当性	A	妥当である	パンフレットや口頭での案内の他、タブレット等の電子機器の利用も今後検討する必要があると思われる。					
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	館内に係る経費のみであり、コストは抑えられている。また、観光客に随時対応するべく、月曜を除き1名常駐している。					
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	市内外問わず訪れており、観光案内及び情報提供ができています。					
有効性	成果の向上	A	上がっている	観光案内及び着物貸出事業ともに利用者数が増加している。					
進捗度	事業の進捗	A	順調である	今後観光PRを中心に実施利用者数の増加を図る。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
観光案内及び着物貸出事業ともに現在問題なく実施されている。しかし、市民情報センターに併せて月曜日が休館のため今後は月曜日も開設して、観光客を受入れる体制を整える必要がある。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
外国人に対応できるようマニュアルの作成を行い、外国語案内標記を増加させていく。また、委託先である市観光ボランティアガイド協会の強化が必要であるため会員の養成をしていく。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			観光案内・着物貸出事業ともに問題なく実施されているが、今後開催される、茨城国体及び東京オリンピック等を見据え、国内・外国人観光客等に対応できるよう、着楽会・ボランティアガイド協会会員の強化養成を進め、観光客の受入体制を整えていく。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				